

「千川上水整備基本計画」意見への対応

整理番号	意見	意見への対応・説明
1	計画というより構想といった印象。本来、基本計画が掲げるべき「どのような場に整備するか」という将来像がわからない。	本計画は、既に一定の整備がされている護岸構造等の改変に及ばない範囲で、様々な生物が生息・生育する空間としての役割や位置づけを念頭に置き、上水部分と緑道部分、さらに隣接する公園緑地や公共施設とのつながりを図ることを目的としています。
2	玉川上水と千川上水では、植生の現況が違う。玉川上水が鬱蒼とした樹林帯であるのに対し、千川上水は草地や明るい樹林地として認識されている。その違いを計画に活かしてほしい。	現在の明るい雰囲気を引き続き維持し、安全・安心の観点からも死角の少ない樹木配置などに配慮したいと考えます。
3	生物多様性の記述では、区間②が高く、区間①、③が低い評価となっているが、区間②は岸辺で裸地化しているところが目立ち、区間①や③で水辺の野草が繁茂している様子を見ると逆の感じがする。	計画の策定にあたり行なった、上水の植生・小動物調査の結果に基づき記述しております。
4	「千川上水周辺の緑のネットワーク」図は、もう少し手を入れてほしい。遠いところの大公園（小金井、善福寺）を書き込むことは、鳥の環境としては重要かもしれませんが、身近な自然としては関連が薄いと考える。境山野公園、農業ふれあい公園、武蔵野大学の樹林地、UFJ銀行運動場の樹林地、隣接する農地、屋敷林（八幡町3丁目、関前南4・3丁目、北町5・3丁目）、武蔵野自然観察園、その他緑地（NTT社宅跡地の境界林など）は重要な要素と考える。	ネットワーク図は、広範囲における緑のつながりをわかりやすく視覚化するため、一定規模以上の公園・緑地を載せておりますが、ご意見にある公園等は重要な要素であると考えますので、基本計画に文言として記載します。
5	断面図に周辺の情報が入っていない。隣接する道路（幅員）、土地利用（住宅、農地など）、市境界の位置や道路（通路）の舗装状況なども必要です。	断面図は、各区間の代表的な断面として載せておりますが、道路幅員などの周囲の状況についても、可能な範囲で表現します。
6	都市計画の状況について、まったく触れられていないが、区間③について、それがあることにより、整備計画が制限されるのであれば、そのことを書き込む必要がある。	基本計画の本編には、区間③の施設整備を行う際には、都市計画道路の区域内であることから、関係機関との協議・調整を行い整備内容の検討を行う旨を記載しております。
7	全域的に親水性を高めるため、自然を楽しむという観点から川に近いところに林との調和がとれる統一性のある木道を設置する。そうすることで、ベンチの利用価値も上がり千川の自然コースという位置づけを向上しますし、武蔵野市の観光アピールの一つにもなるのではないかと。	「公園と緑のガイドブック」の散策ルートとして位置づけられており、観察デッキ（木道）や展望・休憩デッキの設置を計画に取り入れております。

「千川上水整備基本計画」意見への対応

整理番号	意見	意見への対応・説明
8	川の護岸をできるだけ自然石組にして、景観を自然に見せる、また、樹木は武蔵野の雑木林にあったものに整理するとよいと思う。	既存のコンクリート製の護岸そのものの改修は困難ですが、仕上げ面を化粧するなど視覚的工夫は検討したいと考えます。また、基本計画の本編には、地域性樹木の補植を図っていくことを記載しております。
9	コースの途中に自然公園（ビオトープ）やお弁当などが食べられる木に囲まれた公園などがあるとよい。また、隣接する公園にはトイレの設置が必要かもしれない。	この計画では、隣接する公園緑地や公共施設とのつながりを図るとしています。トイレの設置については、様々な角度からその必要性も含め、今後研究していきます。